

Question : 最近持続可能な街作り等の話題のなかで、バイオマスタウンとかバイオマス戦略とか聞きますが、そもそもバイオマスとは何で、それによるバイオマスタウン等実現のための問題点を知りたい。

Answer

わが国は2002 年12 月に「地球温暖化防止、循環型社会の形成、競争力のある戦略的産業の育成、農林漁業・農山漁村の活性化」の重要性から、「バイオマス・ニッポン総合戦略」を閣議決定しました。

この「バイオマス・ニッポン総合戦略」は内閣府、総務省、国土交通省、環境省、文部科学省、農林水産省の7 府省の共同所管による「持続的な発展可能な社会」「循環型社会」を実現するための基本戦略と言えます。その後、京都議定書の発効やバイオマス利用状況を踏まえて、2006 年3 月に現行の「バイオマス・ニッポン総合戦略」が閣議決定され、それに基づくバイオマスタウン構想は現在（2010年11月）286自治体で認定されています。これらの多くのバイオマスタウン地域は、事業化段階に入る状況にあります。

「バイオマス・ニッポン総合戦略」で取り上げているバイオマスとは、生物資源（bio）の量（mass）を表す概念で、「再生可能な生物由来の有機性資源で、化石資源を除いたもの」としており、私たちのライフサイクルの中で、生命と太陽エネルギーがある限り持続的に再生可能な資源であるとしています。バイオマスから放出されるCO²は生物の成長過程での光合成により大気中から吸収したCO²あることから、大気中のCO²を増加させない「カーボンニュートラル」と呼ばれる特性を有しています。このため、化石資源由来のエネルギーや製品を代替することにより、地球温暖化等の防止に大きく貢献することが出来ます。最近な例では、薪ストーブや炭による暖房機・火鉢等がこれにあたりますがその効率や廃棄物等の再利用が重要なポイントです。

ただ、バイオマスは、「薄く、広く」分布する特性を持っており、具体的なバイオマスタウン事業の展開には、収集、輸送コストなど多くの課題が指摘されています。

バイオマスタウンは「循環型社会・持続可能な社会形成」という文明史的な大きな課題に十分に応えるポテンシャルから、バイオマスタウンづくりは行政側の国民への理解と意識向上への働きかけや地域の主体性と市民の参加が必要不可欠であると考えられています。

T D A サロンのご案内

交流の場としてゲストを囲むTDAサロンが発足しました。奮ってご参加ください。（詳細はHP参照）

- 第1回 12月2日（ゲスト）渡辺治郎さん
- 第2回 1月27日 遠藤勝勲さん
- 第3回 2月10日 森 一朗さん
- 第4回 2月24日 角田 修一さん
- 第5回 3月10日 勝田幸仁朗さん（予定）
- 第6回 3月31日 実石 欣也さん（予定）



第3回 森さんのサロン風景

景観ビジネス最前線

www.kansai.co.jp



地球環境とお客様とともに・・・

Eco Paint friendly

みなさまの大切な建物や設備に
エコロジー そして エコノミー

内 装

ALESSHIKKUI

漆喰塗料「アレシッコイ」は、
壁紙の上から直接塗れる塗布型
漆喰です。消臭、抗菌、VOC
吸着除去などの多彩な機能が室
内の空気を快適にします。

外壁塗装

超低汚染外壁防水工法

リペルマイスター21工法
RE-BEL MEISTER 21 SYSTEM

優れた柔軟性をもつ塗膜によって、
外壁のひび割れから雨水が侵入す
るのを抑え、長期にわたり鉄筋コ
ンクリート造建築物を保護します。



関西ペイント

【お問い合わせ】

関西ペイント販売株式会社

〒144-0045

東京都大田区南六郷3丁目12-1

TEL.03-5711-8901

事務局だより

事務局の場所は千駄ヶ谷3丁目ですが、東京メトロ副都心線の北参道駅からのアクセスも近いので、ホームページの事務局案内図に北参道駅からのルートを加えました。第2第4木曜の夜は「TDAサロン」にお立ち寄りください。これまで3回にわたって掲載してきた「会員紹介・景観コラム」は、未掲載や新入会員の皆様のプロフィールが整い次第、今後も随時掲載を予定しています。 事務局長／八木 健一



2011-03-01

目次

- 表 紙
見えない背後を描く（絵・文）
／小澤 尚
- 見 開
TDA NEWS
TDA 連続「景観講座」
ー第4回～第6回概要ー
／椎原 晶子・高橋 徹・高谷 時彦
- 見 開
海外ランドスケープ事情
「ドイツの国際建設展（IBA）」
／服部 圭郎
- 裏表紙
景観文化Q & A「バイオマスタウン」
／内山 興亞
- 裏表紙
事務局だより／八木 健一
- 裏表紙
景観ビジネス最前線
／関西ペイント販売(株)
- 別 冊
景観コラム「正会員紹介 part 3」

TDA News Letter Vol.12

景観文化

NPO法人 景観デザイン支援機構 けいかん・きこう

http://www.tda-j.or.jp



見えない背後を描く

現場でスケッチを描く良さは、時間の経過や、かつての姿に想いをめくれば、今の姿では見落としがちな要素が見えてくることにある。上の絵は、日本橋川の今後あるべき姿に地下断面を加えたものだが、地上の姿は、かつて描いた江戸、大震災前、戦前、戦後の4時代の同位置の姿の図と重ねてある。各層は、共同溝はもとより、下から自動車道路、その上に駐車場やバスターミナル、その上に情報・業務基盤施設、地下1階は水越しに光の入る商店街モールを想定した。環境再生や防災対策だけでなく背後には、工法や借地による民間事業の想定、投資側の利回りの発生、税収や地代などの公共への利点等もある。この絵で不動産センスのあるプランナーもビジネスチャンスを理解した。この絵に描かれた構想を諸外国にも広げたいと絵葉書にしたら、4年後の2008年にはアムステルダムでこの絵の断面と同様な案が発表され、次の展開につながっている。

TDA 正会員 小澤 尚

TDA NEWS

TDA 連続「景観講座」
ー第4回～第6回概要ー

「景観講座」が本郷の会場に定着してきた。今回の報告は昨年の後半催された「谷根千」「西新宿」「鶴岡」の報告である。「谷根千」は谷中学校を立ち上げて徳のある活動が続ける椎原さんと手島さん。「西新宿」は今でも変貌を続ける街だが問題も少なくない。倉田さんの話には企業の方がたの顔もちらほら。「鶴岡」は地方都市だが、面白い話があるとの情報から現地で活躍の高谷さんに菅さんを誘って頂いた。「鶴岡」は地方都市になるが、これにひきつづき「彦根」「静岡」そして6月には「松本」に出かけて講座を締めくくる予定である。



海外ランドスケープ事情

「ドイツの国際建設展（IBA）」

JUDI 会員・明治学院大学准教授 服部 圭郎



上：庭園博覧会は集客力が多いイベントであり、地域活性化にも繋がっている
下：斬新なランドスケープ・デザインがお披露目されることで、人々の庭園意匠への啓蒙効果も期待されている

4「谷・根・千」
路地と職人長屋と商店街の情緒ある街

椎原 晶子氏
NPO 法人たいとう歴史都市研究会副理事長

手嶋 尚人氏
東京家政大学准教授

台東と文京の両区にまたがる谷中、根津・千駄木は、寺と商店と屋敷と職人の家と路地、アパートなど、昔からの職住が息づいている。この寂れかけた街に1970年代より活性化をはかる活動が生まれた。地域雑誌「谷根千」（やねせん）は積み重ねられた町の歴史、自然、住人の思い、魅力を掘り起こし、街の誇りを高めた雑誌でもあった。80年代になると地域の人や芸大の有志等が集い、「ホッとする環境」を知る共同調査を行った。ここには、目の行き届く路地、引き戸の玄関、植木棚、近所の商店などさりげないつき合いの中で助け合い、互いの安全安心を見守る仕組みがある。だが、建替となると路地は拡幅され、家は閉鎖的になりがちだ。後継不足で長年親しまれた店や作業所が閉じていく。そこで私たちは89年「谷中学校」を設立し街の魅力探しや建物・都市づくりの提案として新旧老若住民をつなぐ活動を始めた。なかでも93年から始めた「芸工展」は街のものの作りやアーティストたちの活動を紹介し交流することで「手作り文化の街」のイメージを顕在化した。今では手作の店やギャラリーも増加し、街に新たな活力が生

まれている。イメージが高まれば開発も増える。98年ここでも高層マンション計画が起きたが専門家との連携で地域共生型マンションを提案。事業者は高さや色を街にあわせ、沿道の人々とも協定を結び入居者のすべてが町会に参加した。この機運を活かし2000年には「谷中地区まちづくり協議会」を立ち上げた。区も支援事業をはじめているが路地や木造の家は防災上の課題も多く、制度的な保存支援が難しい。そこで01年に発足したNPO「たいとう歴史都市研究会」では、明治屋敷「市田邸」の保全をきっかけに、古い町家や彫刻家のアトリエ等を借受け、住居や店舗、展示場としてサブリースし、公開活用をしている。誰も損をしない形で歴史的生活文化の保全を進め、まちの活気を高めるのだ。個々の生活や活動が少しずつ燃り合わさり、住む人が誇りを持って、安心して暮らせる地域づくりにつながればと願っている。（椎原 晶子）

5「西新宿」
大規模都市開発の再生を考える

倉田 直道氏
都市デザイナー／工学院大学教授

長濱 龍一郎氏
パナソニック電工・環境計画推進グループ

1960年代から開発が始まった新宿副都心は20世紀を代表する都市イメージを実現したが、21世紀に入りそのほころびも見えてきた。講師の倉田氏は地元、超高層

ビルのキャンパスでこの街の研究を続けておられるが、今回はその一端を紹介していただいた。西新宿の外部空間の特徴は、コルビジェモデルを下敷きに、建物足元の広い空地と、立体的な歩車分離である。地上と地下の間には歩行者のための中間的なレベルも設定されるなどの工夫が新宿三井ビルと住友ビルの間などに見られる。しかし、歩者分離の徹底は歩行者の上下の移動が増え、各所に段差を生み出す結果も生んだ。これからの西新宿のあり方について、倉田研究室の学生が中心に行った分析と提案も紹介された。学生ならではの大胆な提案として、地下4号街路のオープン化やLRT導入、広すぎるオープンスペースの低層建物による分節化、広場に穴を開け上下を繋ぐ、余剰オフィスの一部を住宅にコンバージョン、高層ビルの外壁に穴を開け立体的な緑空間化など、色々なアイデアが出された。また、西新宿のような街でこそ、エリアマネジメントの効果を発揮すべきで、防災や公共空間の一体的管理を主テーマは地域の同意を取りやすいと思われる。講演の最後に、西新宿でも検討を始めたバーチャルリアリティによるプレゼンテーション



の紹介を長濱氏にいただいた。このようなモデルは、特定の計画のみに使われるのではなく、一旦作成されたデータは公開されて、次に続く計画が作り足すように利用されるべきである。都市開発やまちづくりの合意形成に有効な手段として、一つの街のデジタル空間を皆が共用して使う習慣をつくるべきとの大変、重要な課題提起をしていただいた。（TDA理事 高橋 徹）

6「鶴岡」
持続する風景ー地方都市鶴岡の挑戦

高谷 時彦氏
東北公益文科大学大学院教授

菅 隆氏
㈱まちづくり鶴岡企画部長

鶴岡市は山形県の手側にある庄内地方の中心都市で人口は約14万人。藤沢周平の時代小説のモデルとなった静かな風情ある城下町である。擬洋風建築なども多く明治の建築文化をリードしてきたまちとして建築関係者には知られる。報告の中心テーマとなった「鶴岡まちなかキネマ」は空洞化の進む中心部の工場跡地再生プロジェクトであり、衰退傾向からの歴史的な転換を意図し、「まちなか生活を楽しむための複合文化施設」を民間の手でつくろうという地元リーダーの斬新なアイデアが出発点となっている。松尾芭蕉も歩いた静かな小路に面し、深い積雪にも耐え80年余りも変わらぬ姿を見せしている木造織物棟や、ラチス構造が面白い鉄骨造の

燃糸工場を訪れた高谷は「地域を牽引してきた絹織物産業を目に見える形で継承していくことが地域アイデンティティの確立に不可欠」であり「サステナブルな発展のためにも既存の工場施設群を活用していく」というデザイン方針のもと設計に取り組んだ。その後地域企業の出資により事業の実行組織である㈱まちづくり鶴岡も発足し、昨年の春に第一期の映画館ゾーンが完成。昭和初期の木造トラス構造の小屋組みを現す個性的な映画館が生まれた。

事業の立ち上げから運営にまで携わる㈱まちづくり鶴岡の企画部長菅さんはアイデア豊かなまち再生のかけ人である。経営的には難しいと思われる映画館事業であるが、ターゲット（客層）が多様という特性を生かせば、地域との連携で面白い展開ができるというのが菅さんの読みである。映画館単独ではなく周辺商店街と連携する様々なしかけを繰り出し、映画館を契機としたまちの再生という当初テーマを着実に実行している。都市再生のモデルとなる先導的な事業に与えられる経産省の補助金の獲得にも手腕を発揮している。

しかし、映画への新規参入事業者としてのハンディもあり、集客で苦戦しているのも事実である。鶴岡は木造絹織物工場を改造した文化財建築で映画を楽しめる世界で唯一のまちである。市民が、まちなかキネマを自分たちの共有財産として位置づけ、ともに映画を楽しみ支えていこうという意識が更に広がっていくことを願うものである。（TDA会員 高谷 時彦）



お城を中心として7つのテーマの庭園が展示された



2009年に開催されたシュペーリン市はルネッサン様式の城で知られている

として活用しているのである。

最初の連邦庭園博覧会は1951年にハノーファーの都市公園を会場として開催された。この連邦庭園博覧会を公園整備のツールとして最も活用したのはハンブルク市、シュツットガルト市、ドルトムント市で、これらの都市はこれまで3回ほど開催している。1990年にドイツが再統一してからは、コッブス、マゲデブルク、ポツダム、ロストック、ゲラ、そして前述したシュヴェリーンと旧東ドイツの都市にて頻繁に開催されている。また、1997年にはIBAエムシャー・パークの対象地域であった衰退する産業都市ギルゼンキルフェンのノードスターン公園が会場となるなど、同博覧会が単なる花卉や農作物のコンテストに留まらず、課題を多く抱える都市・地域再生の有効なツールとして活用されていることが理解できる。



井上 洋司 Inoue Yoji

ランドスケープ

株式会社 背景計画研究所

東京都立川市富士見町3-15-20-Terrace Lee B (〒190-0013)

TEL. 042-540-2061 / FAX. 042-540-2062

E-mail. y.inoue@land.scape.co.jp

URL <http://www.land.scape.co.jp>

「地」に近いところからの発想を、景観デザインに生かす事を考えている。多くの景観に伴う活動をする事で「地」の存在を生かす景観形成の仕事をしたいと考えている。

- 左・中：10年過ぎた今井NT（長野冬季オリンピック選手村）の姿
- 右：モミジのある中庭は上階の人にも季節感を与える



角田 修一 Kakuta Shuichi

不動産開発プロジェクト・プロデュース
(プロジェクト・コーディネーティング)

株式会社 UDP都市再開発企画

東京都品川区豊町1-14-3 プレール戸越公園202 (〒142-0042)

TEL. & FAX. 03-5702-1213

E-mail. cactus1876@marble.ocn.ne.jp

嘗てゼネコン時代（清水建設総合企画室）ニューヨーク駐在員時代に痛切に実感した下記①～③を踏まえ、まず東京都内に美しい街並みの住居を実現化させたいと考えております。実際のマンション再建プロジェクトに関与し、地区計画と

区画整理事業をつかってそれを実現したいと行動中です。

- ①企業管理者の隆盛とは別に、社会には「魅力的な個人が多く存在し」ネットワークを形成して企業や社会の中で生き生きと活動している。

②その背景として個人個人が「ダウン・ツー・ジ・アース」の精神を持って良く実学的勉強をしている。

③それら豊かな個人は美しい街並みに囲まれて生活している。



粕谷 正則 Kasuya Masanori

ランドスケープ

粕谷ランドスケープ設計事務所

埼玉県さいたま市大宮区三橋1-370-1 (〒330-0856)

TEL. 090-2738-7107 / FAX. 048-662-0153

E-mail. landkkk@water.ocn.ne.jp

「地形を創る」…大規模集合住宅で掲げたコンセプトのように、土地の資質に合った景観づくりを志している。

「土地のあるべき姿を創景する」私なりの

作法と心得ている。

- 左：丘を構成する築山に、全ての駐車場を収容した「アイムふじみ野」
- 右：再開発後も、静寂と格式を残す「料亭 Y」



栗原 裕 Kurihara Yutaka

土木設計・都市デザイン

有限会社 ユー・プラネット

東京都台東区駒形1-5-6 金井ビル3F (〒111-0043)

TEL. 03-3847-3555 / FAX. 03-3847-3375

E-mail. kurihara@u-planet.jp

URL <http://www.u-planet.jp>

公共施設（土木施設）は何十年にもわたって不特定多数の人々に利用され、機能性、安全性も求められる施設です。また、近年においては自治体等による維持管理も十分

になされなくなってきました。このような状況の中、よりメンテナンスフリーに近づけ、何十年にもわたって美しさを保てる公共施設を目指し、駅前広場や公園を中心と

して計画・設計しています。●経井沢レイクガーデン



小松 豪 Komatsu Go

建築設計

小松豪一級建築士事務所

東京都世田谷区祖師谷2-5-9-105 (〒157-0072)

TEL. 03-6411-2535 / FAX. 050-3488-3500

E-mail. info@gokomatsu.com

URL <http://www.gokomatsu.com>

世田谷区で設計事務所を開いて3年になります。その間、保育園、温泉施設、住宅などの設計を行ってきました。2011年はひよんな事からODAの仕事に参加することになり、約1年間ベトナ

ム、ハノイで生活することになりそうです。様々な都市、建築、人々との関わりの中で、変わるものと変わらないものを見極めながら、一つひとつ仕事を積み重ねていきたいと思ひます。



●左：ひなた保育園 ●右：湧駒荘別館



曾根 幸一 Sone Kouichi

建築・都市デザイン

環境設計研究室

東京都杉並区下高井戸2-16-4 (〒168-0073)

TEL. & FAX. 03-3327-4315

E-mail. sone_kankyo@ybb.ne.jp

都市デザインは、抽象的になりがちな都市計画を眼に見える3次元的なかたちにする重要な領域です。私はもともとが建築家ですが、わが国は建築をよく理解しない都市

計画家や、都市計画を得意としない建築家が多すぎることから、NPO法人TDA<デザイン支援機構>の立ち上げに参加しました。街は複数の主張を調整することで成り

立っています。市民、企業、行政の間にたって行動する専門家集団がNPO法人TDA<デザイン支援機構>です。



高橋 徹 Takahashi Toru

都市プランナー

クリエイティブ・スタジオ

神奈川県横浜市港北区篠原西町9-44 (〒222-0025)

TEL. 090-4023-3867 / FAX. 045-421-6144

E-mail. trtakahashi.cp@gmail.com

世の中はモノ・金優先から、人それぞれのQOLを求め始めている。時代の転換期なのだ。ものづくりの世界もスケール、専門、国境を超えて広がっていく。まちづくり、

都市景観の世界も変革が必要だ。さて、40年近く所属した日本設計を退職したばかり、目線を組織から一個人に変えて出直

しだ。●左：相模大野コリドー
●右：ネパール ナウリコット村プロジェクト



土田 旭 Tsuchida Akira

都市計画 都市デザイン

株式会社 都市環境研究所

東京都文京区本郷2-35-10 瀬川ビル (〒113-0033)

TEL. 03-3814-1001 / FAX. 03-3818-2993

E-mail. tsuchida@urdi.co.jp

URL <http://www.urdi.co.jp>

なぜ日本の都市は美しくならないのか。一つには都市計画に街を美しくするという視点が欠けていると同時に、建築も敷地主義にとらわれたデザインをするという悪習か

ら抜けきれないまま今日に至っているからだ。都市デザインへの関心は、ニュータウンの計画から既存の都市中心部の再生デザインへ、そして歴史的なまちの保全・修復

へと広がり、自然と都市の織りなす地域景観へと広がった。都市を美しくするには地域の農業、林業のあり方、地産地消の中での風景づくりと一体でなければならない。



長濱 龍一郎 Nagahama Ryuichiro

デザインプロセス コミュニケーション VR

パナソニック電工 株式会社

東京都港区東新橋1-5-1 (〒105-8301)

TEL. 03-6218-1040 / FAX. 03-6218-1041

E-mail. nagahama@panasonic-denko.co.jp

URL <http://denko.panasonic.biz/Ebox/vr/>

VR技術をシミュレーションツールと見る人にはその程度の使いしかできない。設計者プレゼンツールから脱却。継続的なコミュニケーションとコミュニティ形成支

援を実践。課題のど真ん中に飛び込んで地域が自ら考え始める力になる。



●VRで景観を説明している様子



八木 健一 Yagi Kenichi

ランドスケープデザイン

八木造景研究室

TEL. 090-8081-0081

E-mail. yagiland@citrus.ocn.ne.jp

景観法が2005年に施行され、景観行政団体の数も徐々に増えてきたことは望ましい。このNPO活動を通して、景観計画を立ち上げようとする自治体や景観関連企業への

支援・協力をはじめ、まちづくり関係者や一般市民に対して、まちなみ景観に関する認識のレベルアップを図っていきたい。その具体的な活動の一環として「まちなみス

ケッチ塾」を毎月一回開催し、ブログに掲載している。また私自身、いくつかの自治体からの委嘱で景観アドバイザーも勤めている。